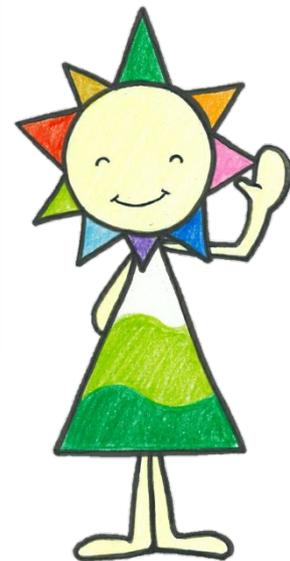


インクルーシブ教育システムの構築と 合理的配慮の提供について



国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター
久保山 茂樹



トウインクルSUN

インクルセンター
マスコットキャラクター

インクルーシブ教育システム構築に向けた経緯

- ・平成18年12月 障害者の権利に関する条約 国連で採択
- ・平成19年 4月 特別支援教育の推進について（通知）
- ・平成19年 9月 障害者の権利に関する条約 日本が署名
- ・平成24年 7月 中央教育審議会初等中等教育分科会報告
- ・平成25年 6月 障害者差別解消法 成立
- ・平成25年 9月 学校教育法施行令の一部を改正
- ・平成26年 1月 障害者の権利に関する条約 日本が批准
- ・平成28年 4月 障害者差別解消法 施行
- ・平成29年 3月 学習指導要領等の改訂
- ・令和3年 1月 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告
- ・令和3年 6月 障害のある子供の教育支援の手引
- ・令和4年 8・9月 障害者の権利に関する条約 審査・勧告

インクルーシブ教育システムの基本的な考え方

特別支援教育については、共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われることが重要であり、（中略）

インクルーシブ教育システムにおいては、障害のある子供と障害のない子供が**可能な限り同じ場で共に学ぶことを追求**するとともに、障害のある子供の自立と社会参加を見据え、**一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導**を提供できるよう、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要。

インクルーシブ教育システムと特別支援教育

特別支援教育を巡る状況の変化も踏まえ、インクルーシブ教育システムの理念を構築し、特別支援教育を進展させていくために、引き続き、

- ①障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられる学びの場の整備
- ②障害のある子供の自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備

を着実に進めていく。

教育的ニーズに的確に応えることの大切とともに 教育をどこまで見直すことができるかの挑戦も必要

障害のある子供の教育に関する基本的な方向性としては、障害のある子供と障害のない子供が、可能な限り同じ場で共に学ぶことを目指すべきであるが、その場合には、それぞれの子供が、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、このことを踏まえた就学先となる学校や学びの場の選択となっているかどうかの確認も必要である。

想像してみましよう、
10年後、20年後の社会

- 子どもたちが大人になって活躍する頃、
どんな社会になっていると思いますか？
- 子どもたちに
どんな社会を託したいですか？
- そのために、いま、
私たちに何ができますか？



共生社会とは

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。

それは、**誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。**

このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月 中央教育審議会初等中等教育分科会報告)

共生社会の形成をめざすために



- いままでは、どちらかと言えば・・・
障害のある人が、社会に合わせてきた。
障害のある子どもが、園や学校に合わせてきた。
- これからは、
社会が、どれだけ多様な人々に合わせていけるか
園や学校が、多様な子どもがいることを前提に
変わっていけるのかが問われる。
- そのために変わり続ける社会こそが、 **共生社会**
園・学校は、**共生社会の担い手** を育む場となる。

教師（大人）が、多様な価値観を持つこと



- **早くできることは、素晴らしい！** でも・・・
→ **も素晴らしい！**
- **大きな声で話せることは、素晴らしい！** でも・・・
→ **も素晴らしい！**
・・・なクラスも素敵！
- **ともだちと一緒に遊べるのは素晴らしい！** でも・・・
→ **も素晴らしい！**

「共生社会の担い手」を育む教育の重要性

＜小学校学習指導要領 前文＞

これからの学校には（略）、一人一人の児童が、**自分のよさや可能性を認識**^①するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働**^②しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**^③となることができるようにすることが求められる。

幼稚園・中学校・高等学校・特別支援学校にも同様の記載

「前文」から読み取れる幼児期に育てたいこと

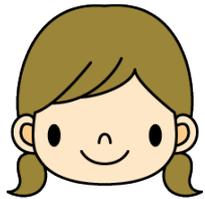
③ 持続可能な社会の創り手
共生社会の担い手 となる基礎

② あらゆる他者、多様性を尊重
して協働する基礎

① 自分のよさ・可能性を認識 する基礎

少数派が、多数派に近づく という方向性 少数派が変わることを求める発想

少数派の
子ども



能力を身につける

子どもが努力して
できないことを、
できるようにする

能力をおぎなう

特別な道具や方法で、
できないことを
できるようにする

多数派の子どもたち
保育者・教師



多数派が、少数派に近づく という方向性

多数派の子ども、保育者・教師が変わるという発想

少数派の
子ども



子ども理解

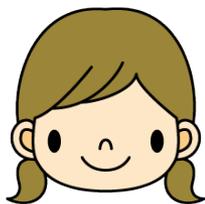
多様性を認め合う
得意、良さも知る
共感のまなざし

保育・授業の改善

だれもが、生活しやすく
学びやすい環境づくり

多数派の子どもたち
保育者・教師





能力を身につける

能力をおぎなう



子ども理解

保育・授業の改善



- いままでは、**右向き矢印**→ を追求してきた
= 少数を**多数に合わせる**ことを目指してきた
- これからは、**左向き矢印**← を追求したい
= **多数の側がどれだけ変わるか**の挑戦！

ご清聴ありがとうございます



「みんなで咲かせた 花さき山」
お互いの良さを見つけてお花に書こう

(幼稚園 4歳児クラスの実践から)